

環境ミニ知識

新聞、テレビ、ニュースなどで見聞きするけれど、あまり知らない「言葉」や「現象」について少し知ってもらえたらいいな！と、ミニ知識を紹介するコーナーです。

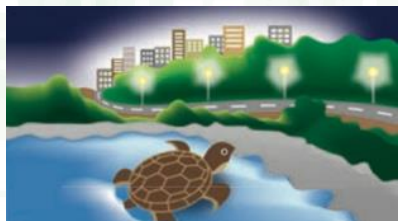


光害

暗闇を照らす灯かりは私たちの暮らしにとって大変ありがたいものです。しかしその限度を超えた明りは「光害(ひかりがい)」として問題になっています。天体観測への影響や、ふ化したウミガメの方向感覚を狂わす、稲の生育への影響など様々な弊害をもたらしています。



エネルギーの無駄



野生生物への影響



居住者への影響

IOWN

IOWN (アイオン) 耳にされことはありますか。NTT が取り組んでいる次世代通信基盤(発信元から受信先まですべての通信を光信号でやり取りする通信構想)のことです。これがなぜ環境と関係が？と疑問に思われるかもしれませんね。実は昨今の AI の普及に伴い、電力消費が課題になっているのですが、この IOWN は電力消費を抑えられるのです。加えてデータの遅延がほとんどなくなるのです

ひとこと



1年が早い！！と感じているのは私だけでしょうか。皆さんはいかがですか？毎日あれよあれよという間に日が経ってしまいます。気が付けば今年も残すところあと2週間(この欄は12月17日に書いてます)となりました。

さて私事ですが、私が地球温暖化の問題に取り組んで40年近くなります。しかし一向に改善されず、増え続けるCO2に「どうしようもないかも・・・」と思ったりします。でも、未来の子供たちのために諦めることなく頑張ろうと決意も新たに新年を迎えたいと思います。 (子)

ひらかた環境ネットワーク会議 会報「環境ひらかた」第84号

令和7年1月1日発行(年4回発行)

発行:(特活)ひらかた環境ネットワーク会議



〒573-0042 大阪府枚方市村野西町5番1号

サブリ村野内(旧村野小学校)

電話 072-847-2286

FAX 072-807-7873

Eメール jimukyoku@hirakata-kankyou.net

ホームページ <http://www.hirakata-kankyou.net>

発行責任者:井上 浩一 編集責任者:丸井 晶子

この発行誌は再生紙を使用しています

市民・事業者・行政が協働し 環境先進都市を実現する ひらかた環境ネットワーク会議 会報誌

NO. 84
春号
令和7年
(2025年)

環境ひらかた



あけましておめでとうございませう

新年おめでとうございませう。昨年(昨年)は元旦早々に能登半島地震が、そして九月には同地を集中豪雨が襲いました。一年たった今も、災害の爪痕がほとんど変わることなくそこにあることに心が痛みます。新しい年を迎え、心から新年を祝福することが出来る日が一日も早く来ることを願うとともに、今年(今年)は平穏な一年であることを祈りたいと思います。今年もよろしくお願いたします。



「ひらかたエコフォーラム 2025」のご案内

日時:2025年2月15日(土) 10:00~13:00

場所:サブリ村野

・南館 2階(環境情報コーナー、環境保全研修室、市民活動研修室)

・北館 1階(101~104)

ぜひ足を運んでくださいネ♪

*****目次*****

新年のごあいさつ	P1
アッチッチサミット報告	P2
エコフォーラム開催案内	P3
部会報告	P4・5
お知らせコーナー	P6
環境トピック VOL.49	P7
環境ミニ知識	P8

私達を取り巻く環境は日々変化しています。最近の環境問題や、環境に関する事柄について「知ってほしい・知らせたい」情報などをこのコーナーで伝えていきます。
今回は、「欧州で始まっている CCS の新たな取り組み」「2040 年ペロブスカイトの普及を原発 20 基分に」の問題です。

◆欧州で始まっている CCS の新たな取り組み

二酸化炭素を回収して地下に貯蔵する技術の一つ、「CCS(Carbon Capture Storage)」が、欧州で始まっていると昨年 11 月 21 日 NHK ニュースで流れました。
ニュースによると昨年 9 月、ノルウェー南西部のオイガルデンという所に、ヨーロッパの大手エネルギー企業 3 社が共同で開発した最新の CCS 施設がオープンし、回収した CO2 を、パイプラインで 100 キロ離れた沖合に送り、深さ 2.6 キロの地中に埋める計画とのことです。一般的に CCS は、二酸化炭素の排出が多い発電所などの近くで行われるのですが、この計画では、専用の船を使って欧州各地から CO2 を有料で引き取る仕組みで、2025 年から受け入れを始める見通しで、ノルウェー政府の全面的な支援を受けていて、商用化も視野に入れた世界で初めての取り組みだということです。



◆2040 年ペロブスカイトの普及を原発 20 基分に

ペロブスカイト太陽電池についてはこのコーナーで以前紹介させていただきましたが、昨年 11 月、政府は脱炭素社会の実現に向けて 2040 年には原発 20 基分(20 ギガワット)に相当する発電規模まで普及させるという目標を正式に発表したことが報じられました。
ペロブスカイト太陽電池は、すでに中国やヨーロッパなどで量産化を目指す動きが高まっており、政府は産業としての競争力を高めるため、日本メーカーの研究開発や量産体制の構築を支援していくとしています。さらにエネルギー基本計画の 2040 年の電源構成で再生可能エネルギーを初めて最大の電源とする方向で検討し、ペロブスカイト太陽電池を計画の柱の一つに位置づける方針だということです。
しかし昨年の衆議院選挙で、大きく躍進した国民民主党が総理に原発の推進と新設を提言し、総理も同意したとの報道があった様に、果たしてペロブスカイト太陽電池を柱とする再生可能エネルギーへと大きく進むかは疑問の残るところです。

ひらかたエコフォーラム 2025

2月15日(土)村野サンプラザで開催

今年のサブテーマは 「日々の暮らしで 温暖化を意識した行動を！」です。

枚方市との共催事業である「ひらかたエコフォーラム」は、当団体にとっては、一年の活動の総括の場でもあり、また関係団体・事業者との交流の場でもあります。
そして何より広く市民の皆さんに環境問題に関心を持ってもらい、皆と一緒に考える機会にしたいとの思いで開催しているものです。

「ひらかたアッチッチサミット」の 報告会を同時開催

右ページで紹介されているように、「枚方から気候変動を考える」として「ひらかたアッチッチサミット」が、昨年 12 月 7 日に全日程を終了し、温暖化対策としての「市民宣言」が採択されました。エコフォーラムでは第 1 回のサミットでご講演いただいた早川光俊先生に講評をいただき、4 回の振り返り報告をします。

昨年の夏号でお知らせしたように、第 1 回は早川先生による講演、そして第 1 回目の講演を踏まえ、第 2 回目は枚方市の温暖化問題における課題と第 3 回の課題解決に向けての話し合いを積み重ねてきました。

それらの成果をぜひ皆さんにも知って頂きたいと思っています。ご来場お待ちしております。



写真は、昨年開催時のエコフォーラムの様子です



お知らせコーナー

このコーナーの情報に関する申し込み、お問い合わせはひらかた環境ネットワーク会議事務局までご連絡ください。 ☎072-847-2



枚方から気候変動を考える

ひらかたアッチキチサミット

4回の全日程を終了

「市民宣言」としてアピール文を参加者で採択!

昨年の9月7日に第1回が開催された「枚方から気候変動を考える ひらかたアッチキチサミット」は、最終日の12月7日、「5つの市民宣言」が採択され、全4回の日程を終えました。

【市民宣言】

1. 自分が知った正しい情報や知識は周りの人に話します。
2. 無駄なエネルギーは使いません。
3. ごみの減量に努めます。
4. 緑を大切にできる意識を持ちます。
5. 地産地消に努めます。

最終日には、採択された市民宣言の各項目について、具体的にはどんなことができるかが話し合われました。その一部をイラストでご紹介します。



◆◆◆エコカップの回収報告◆◆◆

エコカップの取り組みを通して、環境問題に関心を持ち行動するきっかけとなることを願っています



●エコカップ R6年6月25日、11月18日搬入分

重量：93kg (取組開始からの累計 9,214.8 kg)

個数：39,990個 (取組開始からの累計 3,962,364個)

CO₂削減量：292.95 kg (取組開始からの累計 29,026.62 kg)

搬入したエコカップは、再生プラスチック原料として換金され、公益社団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンに寄付され、全国で病気の子供とその家族が利用できる滞在施設の建設費及び運営に充てられます。詳しくは公益社団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンのH・Pをご覧ください。

※お詫び

2023年12月分が抜けていたため、累計の数値は前号に今回の2回分を足した数値とは異なります。

交通タウンマップが更新されました

当団体が製作を担っている「ひらかた交通タウンマップ」が、更新されました。

皆さんもご存知のように、バス運賃が改定され、また10月には一部路線も改定されましたので、それに伴い先月改訂版が発行されました。枚方市の各支所や当団体事務所にもありますので是非ご活用ください。



1月・2月の環境ミニ講座&環境ティールームは・・・

環境への関心を持ってもらおうと「環境ミニ講座」を、環境問題について意見交流の場として「環境ティールーム」を毎月実施しています。1、2月の内容は下記の通りです。

環境ミニ講座

- 1月23日「いろいろリメイク術」牛乳パックやチラシなど、何かに生まれ変わります。
- 2月27日「フルーツ大福づくり」省エネ時短で大福づくり。

環境ティールーム

2月13日「冬の省エネ問題を考えてみよう」

夏の省エネは叫ばれますが冬はどうでしょうか。参加者で意見交流します。



部会活動紹介

ひらかた環境ネットワーク会議では、それぞれテーマごとに部会を結成し、主体的に活動を行っています。



環境教育部会

環境問題と課題を自分事として

昨年は「ひらかた環境ネットワーク会議」が任意団体として発足して20年という節目の年でしたが、環境教育部会も大きな転換点を迎えた年でもありました。特に部会メンバーの高齢化や、担い手不足といったことから、これまでの環境出前授業を基軸にした活動から、環境ネットワーク会議全体の取り組みである「ひらかたエコフォーラム」をはじめ、「環境ミニ講座」、「環境ティールーム」、「ひらかたアッチッチサミット」などへの参加を通して、部会員自身が環境問題を自分事として考えてもらうことに軸足を置きました。そうした中で改めて環境問題と課題対応を如何に啓発して行くかを考える良い機会となりました。

その一方で、昨年唯一依頼のあった桜丘北小のオープンスクールでの環境出前授業では、子育て世代の部会員が、半年前からプログラム原稿の作成に取り組み、スタッフの協力のもと、実験機材の準備や繰り返しのリハーサルなど、入念な準備の甲斐あって成功裏に終わることが出来ました。また今回はオープンスクールという事もあり参観された父母の方にも環境問題に関心を持ってもらう良い機会になったと思います。ちなみに今回の出前授業は6年生2クラス(26名、27名)を対象に「酸性雨」をテーマに行いました。

児童たちの感想文には、「環境に配慮した自分にできること」を沢山書いてくれたのは嬉しい驚きでした。担任の先生からも「酸性雨と環境問題やSDGsとの関連を、児童たちに分かりやすく説明して頂き、実験も興味深く楽しく学んでくれました。」と感謝の言葉を頂きました。

私たちのこのような取り組みに関心のある方は、是非一緒に活動しましょう！



【酸性雨の説明風景】



【地球に見立てた水槽での酸性雨の実験と pH 測定風景】

自然エネルギー部会

「温暖化防止への意識高揚」「自然エネルギーの普及促進」に向け、本年も街宣活動を続けます！

明けましておめでとうございます。

前号(2024年10月1日発行)に引き続き、『温暖化防止対策等に関するアンケート調査』の街宣活動についてお伝えします。

「枚方市が2050年カーボンニュートラルの宣言をしたことを知っていますか？」という問いで始まる本アンケートをこれまで五六市会場等で計7回実施し、306名(枚方市外22名を含む)の方々にご協力いただきました。会話をしながらのアンケートでは、「温暖化防止対策」や「自然エネルギーの必要性」への貴重な意見、更には「CO₂削減に向け、みんなで頑張りよう」といった力強い言葉も掛けていただき励みになりました。本当にありがとうございました。

さて、この計7回のアンケートの結果には特徴が出ています。それは「枚方市の2050年カーボンニュートラル宣言」を「知る、知らない」に拘わらず、皆さん各自できることには取り組んでおられるのですが、「知っている」と回答されたの方が「知らない」と回答された方々よりも、温暖化対策に係る質問5項目の行動がやや高い比率となったことです。このことは、環境や温暖化に係る情報を絶えず意識し、知ることが日々の行動を更に後押しするのではないかと考えられます。

最近の温暖化防止対策に向けた大きな動きとして「COP29」「プラスチックごみ減量の国際条約締結に向けた協議」日本の「2040年に向けたエネルギー基本計画の検討」枚方市の「ひらかたゼロカーボン事業の推進」等があります。今年はいこれらの情報等も皆さんと共有しながら「街宣活動」を行う予定です。私達個人ができる範囲で、温暖化防止に向け共に頑張りましょう！！

枚方市の「2050年カーボンニュートラルを知っているか」の質問に対する回答数

知っている		知らない	
46人	15%	260人	85%

